

こころ

県P連だより

編集 徳島市北田宮 1丁目8-68
発行 〒770-0003 ☎088-633-1105
徳島県PTA連合会

ホームページ
<http://www.tokukenpta.com/>



いあいさつ

会長 先田 仁美

日頃より、徳島県PTA連合会の活動に際しまして、ご理解・ご協力をいただき心より感謝申し上げます。

未だ猛威をふるっている新型コロナウイルスですが、少しずつコロナ禍の生活にも慣れ、子どもたちも学校において登校時の検温・手指消毒・マスク着用・黙食等、感染予防対策が生活のルールとして定着しつつある一方、学力の低下や健康面、精神面でも大きな影響を受け、悩み続けている子どもたちがいるということも事実です。

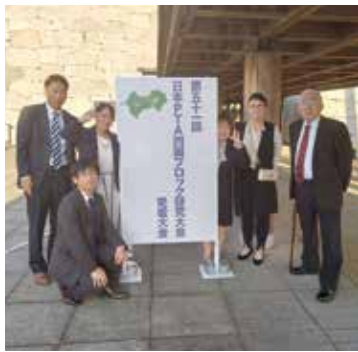
学校行事や地域との関わり、学習の機会を失った子どもたちは声にならない悲しみや辛さを抱えていることと思いません。

こんな時だからこそ、各家庭、学校、そして地域をつなぎ合わせる役割が出来るのが

PTAだと思えます。子どもたちの笑顔を守るべく、しっかりと活動を進めていきたいと考えています。

子どもたちの健やかな成長をサポートするために、各郡市P連との連携をより一層深め、各種研修活動や教育環境の整備などに務めなければなりません。

新たな感染拡大を阻止し、慣れつつある生活様式の中で新しい活動の在り方を模索し、子どもたちのことを考え、明るく楽しく前向きにそして「攻め」のPTA活動を進めていきますので、今後ともより一層のご理解・ご協力をお願い申し上げます。



県P連総会

本年度の定期総会は六月五日(日)県教育会館において、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を取りながら来賓を招待せずに規模を縮小して行いました。

県P連役員・郡市代議員・受賞者の方々の出席のもと、令和四年度定期総会が開催されました。

井本友子会長のあいさつに続き、熱心な活動をされた二団体と三十五名の方に表彰状と十二名の方に感謝状が、そしてPTA広報紙コンクールに入賞された二校に表彰状が贈られました。その後、株田昌明氏の受賞者代表謝辞へと進みました。

議事に入り、令和三年度の事業報告・決算報告・監査報告を承認の後、令和四年度新役員が選出され、次に令和四年度努力目標、事業計画・予算案等についての協議が行われ、原案どおり承認の運びとなり、総会を終了しました。

令和四年度 役員

- 会長 先田 仁美 (役員会推薦)
- 副会長 樺山賢太郎 (鳴門)
- 〃 山守ひとみ (勝浦)
- 〃 谷川 真二 (つるぎ)
- 〃 上野弘一朗 (役員会推薦)



- 〃 佐藤 央一 (役員会推薦)
- 〃 阿部 美紀 (役員会推薦)
- 〃 森田 充 (県小学校長会代表)
- 〃 市瀬 佐代 (役員会推薦)
- 〃 理事 (県中学校長会副会長)
- 〃 大家 稔喜 (名西)
- 〃 近藤 弘幸 (小松島)
- 〃 松本 公章 (那賀)
- 〃 井口 俊介 (海部)
- 〃 三浦 千春 (阿波)
- 〃 的場 猛 (吉野川)
- 〃 北川 一朗 (美馬)
- 〃 監事 山田 聖士 (板野)
- 〃 待田健太郎 (阿南)
- 〃 顧問 木藤 明宏 (三好)
- 〃 泉 富士夫 (板野)
- 〃 井本 友子 (阿南)
- 〃 広報委員長 蟹江 美子(鳴門)
- 〃 研修委員長 影山 智浩(板野)
- 〃 総務委員長 先田 仁美 (役員会推薦)

ブロック別PTA活動紹介

～地域の伝統を守り 未来へつなげよう～

家庭・学校・地域の連携

★次号のブロック別PTA紹介は、鳴門市P連、小松島市P連、阿波市P連です。

南部ブロック 海部郡PTA連合会

会長 井口 俊介

海部郡PTA連合会（以下、郡P連）は、美波町、牟岐町、海陽町にある小中学校等あわせて12校で構成されています。海部郡では少子高齢化や過疎化の影響が大きく、各学校において児童・生徒数は年々減少の一途を辿っており、加盟世帯数や教職員数が減少しています。令和4年度の児童・生徒数においては伊座利校9人、由岐小39人、日和佐小141人、牟岐小84人、海南小124人、海部小50人、穴喰小92人、由岐中22人、日和佐中70人、牟岐中57人、海陽中110人、穴喰中41人（R4.5.1現在）となり深刻な問題となっています。

郡P連においては専門委員（広報、教育問題検討・総務、人権家庭教育・研修）を任命するとともに、各単Pにも専門部会を設置して、さまざまな事業を実施しております。毎年、郡P連行事としてソフトボールとソフトバレーボール競技での球技大会を開催してまいりました。令和2年度役員会で①天候に左右されるソフトボールの問題、②各単Pの減少による参加者確保の困難性、の2つの問題点について議論し、9人制ミックスバレーボール競技へ変更し実施することに決まりました。令和3年度は新型コロナ感染症により中止する一方で、令和4年度の球技大会開催へ向け準備をしてきました。しかし、令和4年度も5月に実施した郡P連総会において、「子どもたちの生活にも制限がある中、安全に実施できる保証もなく開催するべきでない」「新型コロナの感染拡大が続く中、中止せざるを得ない」という意見が多く、中止という苦渋の決断をしました。コロナ禍ではありますが、美波町由岐地区から海陽町穴喰地区まで車で1時間超を要する地理的な問題、多様化する保護者ニーズの変化等もあり、各単Pが気軽に集まり事業を実施し活動していく困難さが浮き彫りになっています。



そのような現状の中、煩雑化する学校事務へ対応する「働き方改革」の実践や、単P含めたPTA事務局機能や各種事業実施に伴う業務分担等の観点から



も、今後のPTA活動を持続可能で効率的な活動にしていけるよう図らなくてはなりません。今一度、PTA活動の意義や目的について考える必要があります。そこで、重要となってくるのが地域コミュニティとの関わりです。「県P連令和4年度活動目標」において、「家庭・学校・地域の連携」が謳われており、保護者と教職員が協力し、子どもたちにとってより良い生活環境づくりを目指して地域と連携し、地域社会全体で見守っていく仕組みを構築し、取り組みを行うこととなっています。私の所属する海南小学校では、平成30年度より学校運営協議会（コミュニティスクール）を導入し、学校運営の改善や児童生徒の健全育成に保護者及び地域住民等が参画し支援・協力をしています。通年における交通立哨や挨拶運動、放課後子ども教室、絵本の読み聞かせなど、地域との連携は学校運営にとって必要不可欠となっています。海部郡は温暖な気候と、多くの住民は温厚・温和な性格です。このような環境のもと、海部郡の児童・生徒は「すこやかに・さわやかに・おおらかに」育っています。また、PTAは地域住民と一丸となり、自他の人権を大切に、相手を思いやる温かい心を育て、郷土を愛する豊かな心情を育てています。地域の人・もの・こと（自然遺産や文化遺産）との関わりや伝承、防災・減災・安全教育などの充実を図るうえでも「PTA」と「地域住民」との今まで以上の深い互助・共助の関係の構築が必要ではないでしょうか。

むすびに、海部郡の各小中学校は児童・生徒数の減少により、学校運営はもとよりPTAや子ども会等の活動に影響を受けています。コロナ禍だからこそ原点に立ち返り、PTAの意義や目的を再認識し、明るく希望が持てる未来へつなげるとともに、次代を担う児童・生徒のために考え、行動していきたいです。

西部ブロック 三好地区PTA協議会

会長 木藤 明宏

三好地区 PTA 協議会は、三好市(小学校13校・中学校6校)、東みよし町(小学校4校・中学校2校)の25校で構成されています。

西部ブロックの活動報告ですが、コロナウイルス感染拡大以降は会議等はすべて中止となり、最近では対面による会合などを実施できていません。各種の学校行事をはじめ、PTA 会員同士の交流もままならない状況であり早期の収束を願うばかりです。

さて、今回は報告に代えて東みよし町での ICT 教育の環境整備について、私自身が仕事として関わっている部分もありますので、この機会にご紹介しようと思います。

東みよし町では足代小学校を中心に、2010年度から文部科学省が指定する「フューチャースクール実証校」として、タブレットやデジタル教科書の活用について研究を行ってきました。開始から10年というところで今回のコロナ感染拡大となり、全国でもタブレット端末の導入、教育のデジタル化が進みました。

多くの教育現場で混乱も見られましたが、東みよし町ではこれまでの研究成果や実績をもとに、さらに一步先の ICT 教育へと進んでいます。すべての小中学校を町の光ファイバーで結び、学校専用のギガネットワークを役場庁舎に集約化。各種のフィルタリングやネットワーク分離などのセキュリティ対策のほか、各学校の教室に設置した Wi-Fi 機器も含めて、一括管理できるようになっており運用にかかる労力が大幅に低減されています。

また今年度は全校に「電子黒板」を65台導入し授業で活用されています。さらに来年度には、役場の業務システムのクラウド化で空きのできたサーバーを活用して「デジタル教科書」の充実も図る予定です。全校で導入されている自治体は292市区町村で、まだ16.8%程度ですが、あと数年で一気に普及すると思われます。

システム環境の整備充実を図る一方で運用に携わる「人材」の確保も重要です。かねてより ICT 支援員の確保が必要とされていますが、多くの自治体では依然として不足している状態です。最新の機材があっ



ても有効に活用されない原因となっており、先生の負担が増したり、何より子どもたちの学習に支障を来しています。自治体が教育現場をよく理解していなかったり、十分な予算が配分されていない例もありますので、私たち保護者が PTA を通じて教育委員会に働きかけることも必要です。



そして何より、子どもたちの学習への影響について PTA はもっと関与しなければなりません。教育のデジタル化は良い事ばかりではなく悪い影響もあります。特に子どもの身体への影響については注意が必要です。多くの子どもたちが家庭でもスマートフォンやゲーム機を使い、学校でもタブレットとなると、一日中液晶画面を見続けることになり視力障害の原因となります。インターネットへの依存やトラブル対策も含めて、家庭も学校も、みんなで上手な使い方を考えなくてはなりません。

また、タブレットのデジタル教科書だけでは不完全です。近年子どもの「書く力」の低下が心配されています。筆圧が弱くなり上手に文字が書けなくなっているのです。タブレットの使用頻度が増えることで、さらに鉛筆ばなれが進みそうです。書けないことが学力低下の原因になるとも言われていますので、紙に鉛筆で書くという古典的な学習方法もまた重要性を増すことになるでしょう。

コロナをきっかけに教育のデジタル化が一気に進みました。教育環境が大きく変化していますが、私たちの理解や対応はまだ追いついていません。しばらくの間は試行錯誤が続くことになるでしょうが、デジタル化は社会全体に及んでいますから、学校の中だけでどうかなる話ではありません。学校と保護者の連携組織である PTA がこれまで以上に密接に協力して、自治体の教育・情報政策にも積極的に関与していかないと地域全体が遅れをとってしまいます。地方の教育力の低下に拍車をかけることにもなりかねません。

従前の予定調和の活動を繰り返すだけの活動では、それこそ PTA 不要論が出てきます。子どもたちの教育環境を少しでも良くするために、いま私たち PTA がやらなければならない事に気づく必要があります。そのためにも研修活動が少しでも早く再開できるよう準備を進めていきたいと思ひます。



県 P ツイッター始まっています！

徳島県 PTA 連合会も Twitter で情報発信をしています。PTA 活動報告やイベント情報、子育てに関連する情報などを発信していますのでぜひフォローをお願いします。



栄えある全国表彰

十一月十八日（金）東京のホテルニューオータニに於いて日本PTA全国協議会表彰式が行われました。本県から勝浦中学校PTA、県P連元監事の株田昌明さん、前理事の千代田裕樹さんが出席しました。なお、本県関係の受賞者は次の通りです。心よりお喜び申しあげます。

日本PTA全国協議会 会長表彰・団体

石井町高原小学校PTA
勝浦町立勝浦中学校PTA
日本PTA全国協議会
会長表彰・個人

県P連元監事 株田 昌明
(芝田小P)

県P連前監事 江本 満
(鳴門中P)

県P連前理事 千代田裕樹
(広野小P)



「楽しい子育て全国キャンペーン」～家庭で話そう！我が家のルール・家族の絆・命の大切さ～

令和4年度 三行詩コンクール 徳島県優秀作品

中学生の部

日本PTA全国協議会佳作

脱毛症 病気になるってつらかったけど一緒に坊主になってくれたお父さん勇気をくれてありがとう

阿波市立阿波中学校2年 市原 颯

中学に入ってから自転車の通学はくは知らなかった母が見えなくなるまでよく見送ってくれている事を

阿波市立阿波中学校1年 福田 旺祐

毎週1番楽しみなのは？家族4人で食べる母のご飯。その1時間が私の一番の楽しみです。この時間が続きますように。

阿波市立阿波中学校2年 長岡 萌愛

争奪戦 ソファアの住人 早変わり

阿波市立阿波中学校2年 町田 瑠菜

たいせつなことはでもないえない「ありがとう」

阿波市立阿波中学校3年 森本 拳成

ごめんなさい… たった6文字が言えなくて布団の中そつと頭をなでてくれるママのあたたかい手…大好き明日「ごめんなさい、大好き」って言うからね

美馬市立岩倉小学校1年 吉田 莉乃

家族とのきずな ペットも家族 みんながみんな 大切な家族

阿南市立椿小学校3年 稲垣 衣織

「〇△□。」言葉で言えない時もある。それでも家族は会話できる。だって私が育ってきた家だから。

鳴門市鳴門東小学校6年 福池 葵

朝、子を見送る私 夜、私を迎える子 平穏な日常に感じる親子の絆

上板町立松島小学校 松田 健志

子どもの成長 見守るが 我慢できない手出し、口出し 子どもからのクレームに反省す。母に必要、広い心と待つ力!!

上板町立松島小学校 漆原 文子

スマホより 家族と過そう 親も子も

石井町浦庄小学校 森西 正典

「ママだっこ」小さい頃は抱き上げられていた娘も今はイスに座ってでないと抱けなくなりました。娘の成長を日々感じる幸せな時間です。

上板町立松島小学校 平野 由紀

何があっても アナタを信じます 何があっても アナタを守ります そんな親に私はなりたい

阿南市立羽ノ浦中学校 仁尾 修治

徳島県PTA 連合会

小・中学生総合保障制度 自転車総合保障制度

詳しい内容はパンフレットを ご覧になるか 取扱代理店に お問い合わせ ください



中南さん 志磨さん

「学校での防災教育・防災対策について」

徳島県教育委員会体育健康安全課 防災・安全教育担当 班長(リーダー)

志磨 正師 さん

徳島県教育委員会体育健康安全課 防災・安全教育担当 指導主事

中南 篤志 さん

Q1. 徳島県ではどのような防災教育を行っていますか？

A. 現在の学習指導要領には防災を含む安全教育についても盛り込まれており、子どもたちは様々な科目で防災につながる学習をしています。

県教育委員会では、「あわっ子防災チャレンジ」という資料を県内の小学5年生を対象に配布し、いつ起こるかわからない自然災害についての知識や防災情報を各学校で総合的に学習ができるように支援をしています。学習を通して、地震や津波だけではなく、河川の氾濫や土砂災害などが起きたとしても、一人ひとりが落ち着いて行動できるようになってほしいと思っています。

Q2. 防災訓練をする際におすすめの方法はありますか？

A. 防災訓練を1年間に1回ではなく、複数回することです。防災訓練は子どもたちが避難の仕方や避難場所を覚えることが大切なので、基本的には授業中に訓練が行われます。防災訓練を年度内に複数回の実施している学校では、休み時間に実施したり、時間を知らせずに実施したりするなど、いつでもどこで避難が必要になっても対応できるように、回数を重ねるごとに内容をレベルアップさせているそうです。

保護者の方にご協力いただく引き渡し訓練は、コロナ禍で取り組むことが難しいですが、少なくとも1年おきに実施して、万が一の事態に備えていただきたいです。

Q3. 避難所の情報はどこで知ることができますか？

A. 「指定緊急避難場所」や「指定避難所」の情報は各市町村のホームページで確認できますので、ご家庭で避難場所を相談するときは参考にしてください。また、各学校では毎年「学校防災計画」を更新しており、警報発令時の対応や引き渡しカードの準備、地域との連携について話し合われています。



【資料】学校防災・防災教育に関するHP

防災・安全教育担当のお二方からのメッセージ

徳島県は、今後30年以内に70~80%の確率で発生すると言われている南海トラフ地震で津波や強い揺れにより大きな被害を受けると予想されています。

子どもたちが学校にいる時間に災害が起きてしまった場合、学校は子どもたちの命を守ることを第一に考えます。次に重要なことは学校を再開することです。学校は避難場所に指定されていることが多いですが、災害からの復興において、子どもたちが再び安心して学校に通うことができる環境を整えることは欠かせません。そのためには、日頃から学校・家庭・地域、そして行政が連携して防災に取り組むことが大切になります。ぜひ、この機会に防災について改めて考えていただきたいと思います。



話し合おう! 決めておこう! わが家の防災計画 【避難ルールは決めている?】

自分の住んでいる地域の危険性は知っている?
土砂災害や津波など、住んでいる地域によって警戒すべき災害も変わってくる。まずは自分の住んでいる地域のハザードマップを確認し、津波や洪水の高さ、土砂災害の危険性を知らよう。

徳島県防災・減災マップ (津波洪水浸水などを確認) <https://maps.pref.tokushima.lg.jp/bosai/>

徳島県土砂災害情報 (現在の土砂災害の危険度を確認) <https://www.sabo.pref.tokushima.lg.jp/>

徳島県水防・砂防情報マップ (本県・土砂災害の危険な場所を確認) <https://www.sabo.pref.tokushima.lg.jp/map/>

徳島県河川防災情報 (河川の河川防災計画を確認) <https://www.kasen.pref.tokushima.lg.jp/>

避難所や安全な避難ルートを確認している?
自宅や学校など、発災時、最も近い避難場所に避難することが大切。いくつかの避難場所や避難所をチェックし避難ルートを決めておこう。

家族との連絡方法や集合場所を決めている?
災害用伝言ダイヤルなど、家族とのいくつかの連絡方法を確認しておくことが大切。家族の集合場所(安全な場所)も決めておこう。

緊急情報の確認 発表される気象情報の意味を理解して避難行動をとることが重要!

注意報・警報・特別警報の違いは?
「注意報」… 災害の恐れがある。
「警報」… 重大な災害の恐れがある。
「特別警報」… 数十年に一度の重大な被害が予想される。

避難情報について知ってる?
「高齢者等避難」… 危険な場所から高齢者等は避難。
「避難指示」… 危険な場所から全員避難。

土砂災害警戒情報とは
土砂災害発生の危険度が高まったときに発表される。
冠水警戒情報等とは
指定した河川の水位を基として発表される情報。冠水警戒情報、冠水危険情報などがある。

警戒レベルとは 警戒レベル1~4があるよ。

警戒レベル	状況	住民が取るべき行動	行動をうながす情報
警戒レベル1	災害発生または切迫	命の危険 ただちに安全確保	緊急安全確保
警戒レベル2	災害状況悪化	自然の避難行動を確認	気象庁の大雨・洪水注意報など
警戒レベル3	災害のおそれあり	危険な場所から 高齢者等は避難	高齢者等避難
警戒レベル4	災害のおそれ高い	危険な場所から 全員避難	避難指示
警戒レベル5	警戒レベル4までに避難		

【資料】徳島県教育委員会発行 あわっ子防災チャレンジ 5ページより抜粋

第70回 日本PTA全国研究大会 山形大会 開催

『人とひとのつながりを体感しよう！』山形大会で掲げられたこの大きなスローガン。本来のコミュニケーションである、直接お会いするという機会が極端に少なくなり、制限を余儀なくされるWithコロナ時代であるからこそ、参加者がつながりを体感できるような大会にしたいというお気持ち、会場や駅の改札等で響く元気な挨拶や、やさしい笑顔、至るところでのお心遣い等、山形の方言でもあり、おもてなしの言葉でもある『あがらっしやい精神』を沢山の場所で感じさせて頂いた素晴らしい山形大会でした。

分科会に参加して

第六分科会 井本 友子

「夢は努力でかなえる。」と題しましてスキージャンプの葛西紀明さんから講演頂きました。なぜ、スキージャンパーになつたかと言う子供の頃の経緯から原田雅彦選手との絡みなど冗談を踏まえてお話頂きました。お話を通して私を感じたことは、目標が定まるとケガや困難にぶつかっても気持ち折れないという事です。才能ももちろんあつたと思いますが、九十九パーセントは努力で成り立っていると思います。とにかく、前へ前へと進もうとする心がかっこいいなと思いました。自分や子供達に置き換えて考えてみる

と、どこか始める前から諦めや、妥協をしている事があるなと感じました。これからの担う子供達はいろいろな選択をして成長していかなくてははいけません。その時に、悔いが残らないよう失敗しても自分の責任において選ぶ事が出来るように保護者として見守る事が出来ればいいなと講演を聴いて思いました。現地での生の声は心に響く会であつたと思います。

第八分科会 山守ひとみ

私は第八分科会の『環境・安全』というテーマに参加させて頂き、『悩みに気づき、相談さ

れる関係性をつくる』子供たちを見守るために必要なものとは、という研究課題を希望し参加させて頂きました。当日はアトラクションも含め、約四時間余りの貴重な時間でした。

その中で基調講演者の先生の「もともとも印象に残った言葉は、『地域の空気は、その地域の人がつくっているんですよ。』という言葉でした。そしてその空気を、子供たちはしっかり見ていて、感じていきますと仰っしゃられ、家庭、地域、学校、保護者が色んな場面で信頼関係を築きながら、様々な課題においても、一丸となって助け合い、寄り添いあうこと、それが本当に大切で、よりよい地域にしていこう！という大人の想いがある

れば、自ずと地域や学校の空気が変わり、はじめはちいさな風呂敷のような場だったその空間が、どんどん繋がりが、子供たちの『安心できる居場所』が広がっていくのですと仰っしゃられ、私も徳島に帰ってから、また一生懸命頑張らせて頂きたいという思いでいっぱいになりました。

私事ですが、勝浦にご縁を頂いて今年で七年目にならせて頂きました。時を重ねても、勝浦が好き、徳島が好きという気持ちは変わっていません。それは何故かな。と想いを馳せてみると、自然もさることながら、やはり最後にのこっているのは『人』でした。

これからの日々も勝浦が好き、徳島に来てよかったですと私自身を感じたように、これからはみ



なさんから頂いた愛の恩返しのような気持ちで、先ずは家庭、そして地域へと一歩一歩精進してまいります。

特別第一分科会 先田 仁美

特別第一分科会に参加させて頂きました。講師は、バツカーズ寺子屋塾長の木村貴志先生による「令和の日本型学校教育」と題したちょっと難しそうな内容の講演でしたが、木村先生の軽快なお話口調にみるみる引き込まれていきました。塾と言ってもただ勉強を教えるだけでなく、家庭や学校ではできない体験や学習機会を通して次世代のリーダーを育成していく中で、その子どもたちを通して、日本の教育とは何か、PT



Aとは何かということ、自らの経験等を踏まえお話ししてくださいました。

他、岩手県滝沢市立滝沢第二小学校PTA会長の白澤仁さんの実践発表も凄く興味深く、自分の経験と重ね合わせて聴かせていただきました。

あと、天童高校ダンス部のアトラクション、感動で涙が出てきました。最高でした！

特別第一分科会 阿部 美紀

研究大会では、「令和」の日本型学校教育」に着目し、基調講演、実践発表を選択しました。日本型学校教育とは、知(確かな学力)、徳(豊かな心)、体(健やかな体)、これらをバランスよく育み、生きる力をつける教育。一方では、「詰め込み型教育」「個性を伸ばせない」「偏差値主義」などとも言われているようです。

昭和から平成そして令和へとは流れている。良き学びは継承し、改革しなければならぬことは進めていく。

『プリンシプル(基本的な方法)や志の大切さを伝えていく教育において大きな力になるのは、やはり親や教師の現実への取り組み方、生き方である。教



育改革の成否は大人の自己練磨と生き方とに、かかわっている。私たち大人が楽しんでいけば、子どもたちも喜び、やる気が出てくる。大切なことは子どもも大人も同じ。目標がなければ進むべき方向は決まらない。そして、攻撃的に話を聞く。この言葉に私は惹かれました。ただ聞くではなく、攻撃的ですが集中力、思考力、人間力もおおずと上がってくるそうです。私は研究大会から、攻撃的に話を聞くことを意識しています。次に、岩手県滝沢市でPTA会長を十年務めた方の実践発表、パネルディスカッションを攻撃的に聞いてみました。各学校のPTA(単P)の役員を決めることに頭を悩まされ

ているかと思えます。私もその一人でした。PTA役員の中には経験者を残し継承していく組織作りです。そのためには組織が学校任せではなく、役員が共に協議する内容を理解し、意見し、認め合い、励まし合い、共に進化し、家庭内に活かしていくなどの取り組みをしていくうちに、役員を快く受けてくれる方が増えてきたことでした。

また、岩手県独自の、『教育振興運動』。学校、家庭、住民等が総ぐるみで、地域の教育課題の解決に自主的に取り組み、子ども、親、教師(学校)、地域、行政の五者が、それぞれの役割を果たしながら、相互に連携して進める運動です。確かにそうです。私たちのPTA活動は、地域の方々の力なしでは成り立ちません。なるほど!! 単Pへ持ち帰り、報告をしたかと思えました。

特別第二分科会 樺山賢太郎

メディア・リテラシーとはメディアの「情報判断能力」という意味のことで、インターネット環境が進んだ現代社会で必要不可欠なスキルであると教わりました。

TVやPCで簡単にいろいろ

な情報を得ることが容易になったかわりに、その情報の信頼性については保証されたものではなく、その情報の正確性については各個人の判断能力に左右されます。

それは大人でも子供でも同じことがいえます。ただ、今の子供たちは、経験も知識もない状態で生まれたときから多くの情報が自由に閲覧できるので、「情報判断能力」というのは今の段階から身に付けておくべきであるかと思えました。

大人は子供にスマホやタブレットの使用を制限したりするのは、スマホやタブレットを使用するなかで、その情報の信頼性の判断能力をどう向上させるかがこれからの教育に必要であり、それは学校でも家庭でも同じであるので、我々親も正しい情報判断能力を身に付けて、子供に正しい使用方法を指導できるようにするべきであると、今回の講演で学ぶことができました。

特別第二分科会 上野弘一朗

皆さんはメディアリテラシーという言葉を知っている方はいくらですか?知っている方はどのようにこの言葉を理解してい

るでしょうか?文部科学省ではメディアリテラシーを「情報活用能力」と訳し、学校教育において「得た情報を、自ら判断し、課題を立て、学習し、振り返り、次の課題を立てる」という姿を目指しているそうです。このような学習目標は、私達が子どもの頃よりも遥かに高いレベルのことですが、今の子どもたちはGIGAスクール構想の下、タブレットなどのICTを使い、私達が経験していない学習方法で、そのようなレベルを目指しています。私がこの講演で感じたことは、「子どもたちのレベルと保護者のレベルにはすでに大きな差があり、私達保護者も勉強をしなければ、本当に子どもが迷った時、困った時に力になれないのでは?」でした。さらに言えば、コロナ禍により一気に進んだリモート授業ですが、私は実際にリモート授業を見たことはないし、恥ずかしながらも子どもからも詳しく聞いたことはありません。人は分からないことは不安となり、不安は次第に不満へと変わります。私たち保護者もつと学校に興味を持ち、分からないことは調べる。聞くといった、子どもと同じように学ぶ姿勢が必要ではないかと思えました。

全体会に参加して

先田 仁美

今回の山形大会のスローガンは、『人とひとのつながりを体感しよう！』ということですが、「withコロナ」の時代に生きる私たちにとって、大事なことがテーマとなっていました。

全体会として、山形交響楽団の桂冠指揮者である飯森範親さんを講師に、飯森さんの生い立ちや指揮者になるまでの経緯を、笑いも織り交ぜながら話してくださいました。

その後、山形交響楽団による演奏を聴きました。弦楽器のみの編成でしたが、バイオリン・ビオラ・チェロ・コントラバスの四つの弦楽器から、それ以上の楽器があるかのような重厚な音域と音質で演奏してくださいました。全ての曲が素晴らしい演奏で、ずっと聴いていたいと思いました。

他、地元で活躍する民謡歌手や、地元の踊りである花笠音頭を間近で観れ、山形を満喫できた全体会でした。

山形大会開催にあたり、コロナ感染者が急増する中、本当に開催するのか？中止にするべき

では…といった声もあったのですが、山形県PTA連合会の熱い思いでリアル開催を実現することができました。本当に大変だったと思いますが、大成功に終わり嬉しく思いました。今回の「学び」を今後のPTA活動に活かしていきたいと思っています。

来年度は「広島大会」です。また新たな「学び」を楽しみにしております。

阿部 美紀

分科会とは違い、山形県の紹介がありました。

民謡日本一の方とコラボした山形花笠音頭、大学生サークルによる花笠を使った華麗なパフォーマンス、山形交響楽団による演奏など、山形県の文化にも触れることができました。

日本PTA全国研究大会は、徳島県のうずしお大会を合わせて二回目の参加となりました。

全国研究大会で参加者が課題などを発言したり、情報を交換する場があれば良いなと思いました。

近年、PTA全国組織の役割

の見直しを求める声などがあがっています。PTA加入者に、各単位PTA役員組織の役割、徳島県PTA連合会として、全国PTA連合会への繋がりなどを知ってもらいたいと思います。全てのPTA加入者に情報発信をしなければならぬと考えさせられた、日本PTA全国研究大会でもありました。

樺山賢太郎

自身の幼少のころからの出来事や交えて、人とのつながりの大切さをご紹介いただきました。今日の飯森氏があるのも人とのつながりから成り立っていること、人生はまさにそうだなと感じました。また、講演後の演奏がありました。聞いてみると楽団の人との信頼関係をすごく感じることで感動しました。

上野弘一朗

歓迎アトラクションとして、出羽三山を有する山形県の修験者による法螺貝が吹奏に続き、県内出身のシンガソングライターで民謡日本一にも輝いた朝倉さやさんの歌唱に合わせ、山形大学による花笠音頭が、山



形県の母なる川「最上川」をイメージした、優しくも激しいパフォーマンスが披露されました。記念講演では、山形交響楽団の創立名誉指揮者である飯森範親氏による「人とひとのつながり」をテーマに、「幼少期の母親とのエピソードや、交響楽団の常任指揮者となった際の人の縁などについてお話をされました。そもそもオーケストラにおける指揮者の役割は、「演奏者一人ひとりと観客一人ひとりを見えない糸でつなぎ合い、紡いでいくこと」と飯森講師は話されましたが、言葉どおり交響楽団の演奏は素晴らしかったです。

編集後記

今年度は県PTA連合会や日本PTA全国研究大会が対面で開催され、その報告を載せることができました。感染症対策をしながらではありますが、PTA活動が再開しつつある様子をお伝えすることができたのではないかと思います。広報紙作成にあたりご協力・ご支援いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。

広報委員一同

子供たちの健やかな育ちのために
「とくしま親なびげーたー」を派遣します！

- 学校（園）全体でのPTAの研修に！
- 学年・学級懇談会の新たな形として！
- 地域での家庭教育の充実のために！

オンラインによるワークショップも実施しています。
ぜひ！ご活用ください！！

お問い合わせ 徳島県教育委員会生涯学習課 学校・家庭・地域連携担当
 電話番号：088-621-3148 FAX番号：088-621-2884
 メールアドレス：syougai@gakusyuuoka@pref.tokushima.jp

とくしま親なび 検索